

大分県長期漁海況予報

〔令和 3(2021)年 1～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<2020年 8～12月>

■黒潮

A型流路の大蛇行が持続しました。
都井岬沖では、7月～12月上旬は概ね離岸傾向で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、9月は「低め」、10月は「平年並」、11～12月は「やや高め」で推移しました(図1)。なお、8月は調査船トラブルのため欠測です。

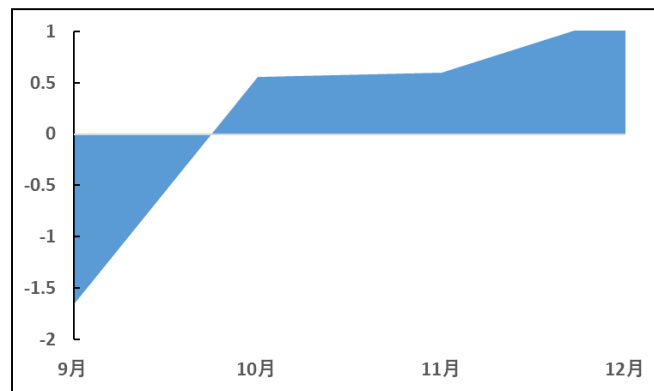


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、9～12月は「平年並」で推移しました。
なお、8月は調査船トラブルのため欠測です(図2)。

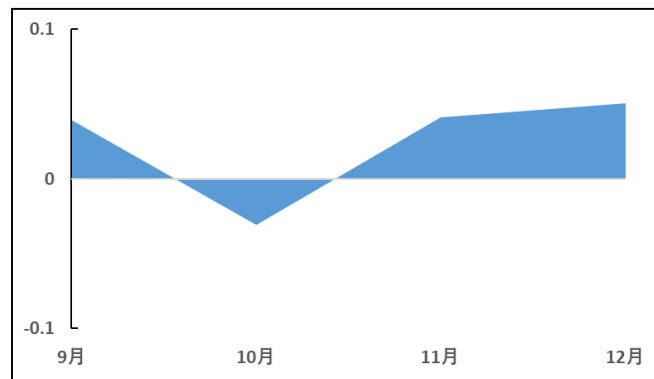


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

■海域別水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m、75m)は、8月は欠測。9月は北部で「やや低め」、中部で「低め」、南部で「きわめて低め」。10月は北部で「平年並」、中部で「やや高め」、南部で「平年並～やや高め」。11月は北・南部で「やや高め」、中部で「平年並～やや高め」。12月は北部で「高め」、中～南部で「やや高め」。

海域	水深	8月	9月	10月	11月	12月
豊後水道 北部	0m	欠測	-	--	+	+
	10m		-	--	+	++
	20m		-	--	+	++
	30m		-	--	+	++
	50m		--	--	+	++
	75m		+-	+-	+	++
豊後水道 中部	0m		--	++	+	+
	10m		--	++	+-	+
	20m		--	+	+-	+
	30m		--	+	+-	+
	50m		--	+	+	+
	75m		+-	+	+	+
豊後水道 南部	0m		---	+-	+	+
	10m		---	+-	+	+
	20m		---	+-	+	+
	30m		---	+	+	+
	50m		--	+	+	+
	75m		-	++	+-	++

■海域別塩分

豊後水道の塩分(10m、20m、30m、50m及び75m層)は、8月は欠測。9月は全域で「平年並」。10月は北部で「やや低め」、中・南部で「平年並」。11月は北部で「やや低め」、中部で「平年並」、南部で「平年並～やや高め」。12月は北部で「低め」、中部で「やや低め」、南部で「やや高め」。

海域	水深	8月	9月	10月	11月	12月
豊後水道 北部	0m	欠測	--	-	--	-
	10m		-	-	-	--
	20m		--	-	-	--
	30m		--	-	-	--
	50m		--	-	-	--
	75m		+-	-	-	--
豊後水道 中部	0m		--	+	-	--
	10m		--	+	-	-
	20m		--	+-	--	-
	30m		--	+-	--	-
	50m		--	--	--	-
	75m		+	-	--	-
豊後水道 南部	0m		+-	+-	+	+
	10m		--	+-	+	++
	20m		--	+-	+	++
	30m		--	+-	+-	+
	50m		-	+-	+-	+
	75m		+-	--	+-	+

今後の海況の見通し<2021年1~6月>

■黒潮

都井岬～足摺岬沖では、2月以降接岸傾向で推移するものの、小蛇行の東進に伴い一時的に離岸することがあるでしょう。

■沿岸水温

「低め」～「平年並」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

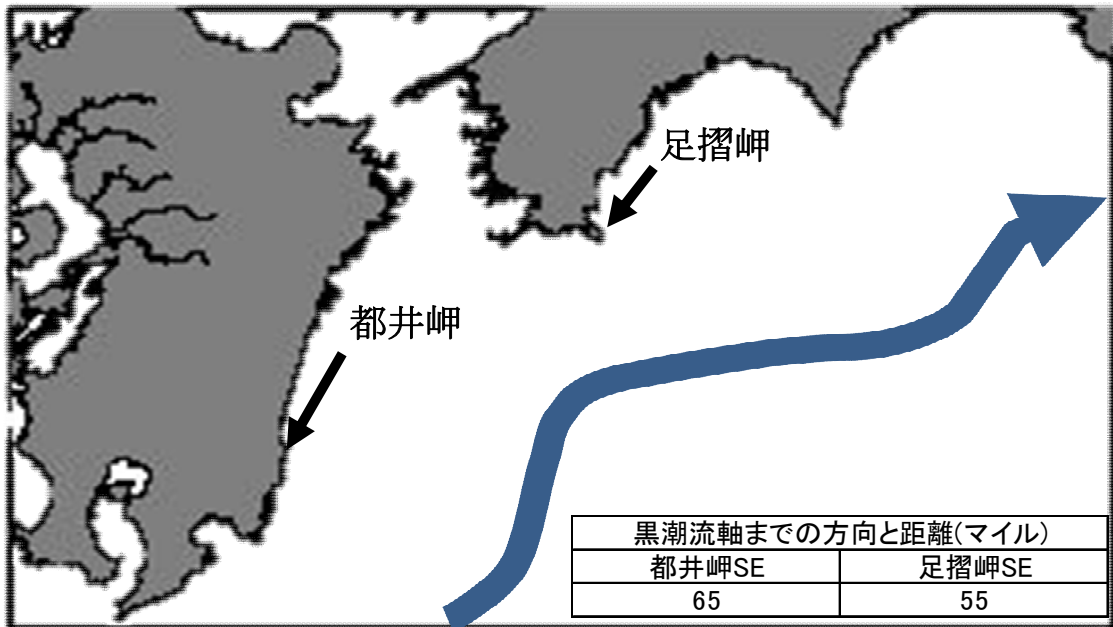
・黒潮流路予測は令和2年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2020)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区気象台から令和2年11月25日に発表された「九州北部地方3ヶ月予報」では、以下のように予測していることから沿岸水温は高めで推移すると考えられます。

- 12月「低め 30 %、平年並 40 %、高め 30 %」
- 1月「低め 40 %、平年並 40 %、高め 20 %」
- 2月「低め 30 %、平年並 40 %、高め 30 %」

■黒潮現況

海上保安庁発行の海洋速報によると、現在黒潮は都井岬でかなり離岸、足摺岬でかなり離岸している模様です。(2021年1月4日発行第1号)



都井岬 離接岸階級	0～30	31～50	51～75	76～
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸
足摺岬 離接岸階級	0～25	26～45	46～65	66～
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸

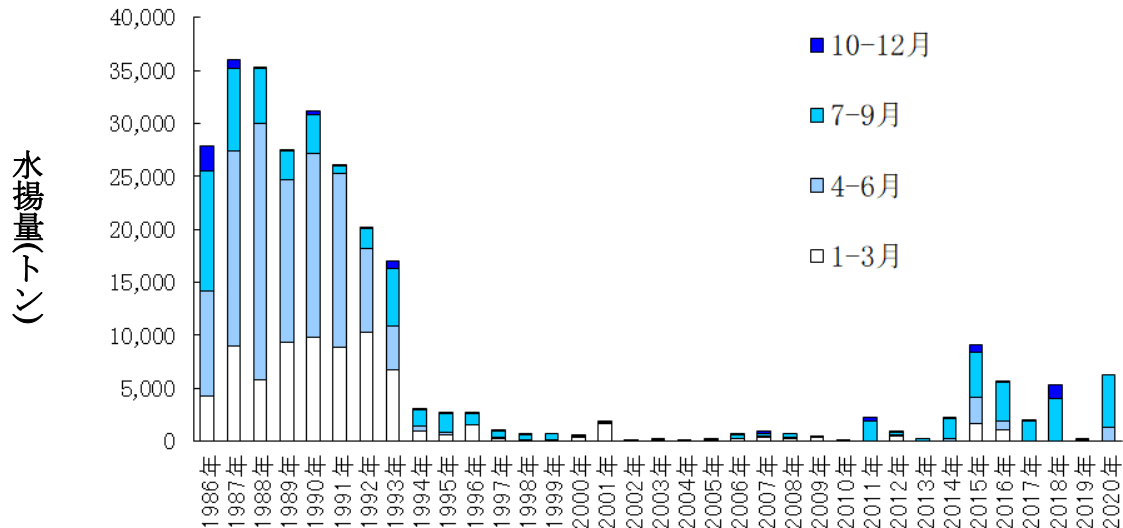
図3 海上保安庁観測による2021年1月4日現在の黒潮流路

■マイワシ

□2020年7～11月の漁況経過

2020年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は6,232トンで、前年比22,257%、1986～2019年の平均値(以下「平年」という)の比が304%と、前年、平年を大きく上回りました。水揚の主体は、被鱗体長^(用語解説①)12.0～15.4cmの0歳魚(2020年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の66,703%、愛媛県は前年の2,069%、高知県では前年の4,902%の水揚量となっています(2020年7～11月の水揚量合計値)。



※2020年は11月まで

図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2020年1～6月:1,342トン)

水揚対象年齢及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1～2歳魚(2019～2020年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7.0～12.0cm前後の0歳魚(2021年生まれ)が主体となるでしょう。

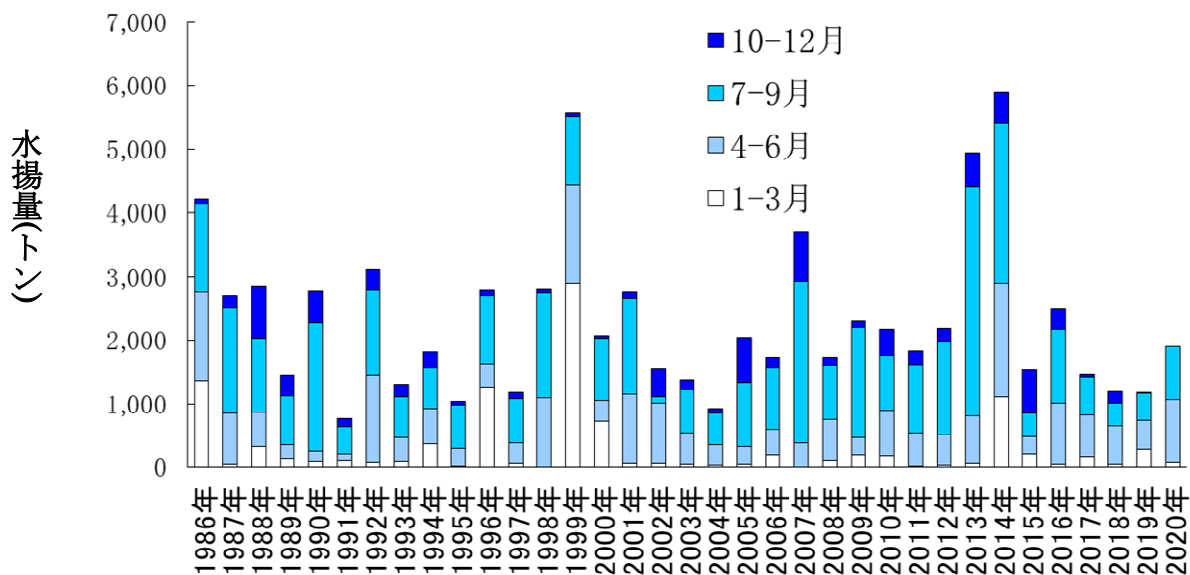
【説明】

1～3月に水揚の主体となる明け1歳魚(2020年生まれ)は、0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体だった2020年7～11月のまき網水揚量が6,232トンで前年を大幅に上回ったことから、予測期間の水揚に期待が持てます。4月以降に水揚される0歳魚(2021年生まれ)の来遊水準について現段階では不明ですが、資源状態が良好なことを考慮し、予測は前年を上回るとしました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2020年7～11月の漁況経過

2020年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は914トンで、前年比209%、平年比68%と、前年を上回り、平年を下回りました。水揚の主体は、被鱗体長6.0～10.0cm前後の0～1歳魚(2019～2020年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の218%、愛媛県では前年の153%、高知県では前年の183%の水揚量となっています。(2020年7～11月の水揚量合計値)。



※2020年は11月まで

図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2020年1～6月:1,071トン)

水揚対象年齢及び体長:

1～6月は1歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体となるでしょう。

【説明】

例年、1～6月は1歳魚が水揚の主体となります。0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体だった2020年7～11月の水揚量は914トンで前年を上回りました。しかし、前年1～6月が好調であったこと、資源状態を考慮し予測は前年並～下回るとしました。

■ウルメイワシ

□2020年7～11月の漁況経過

2020年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は1,186トンで、前年比81%、平年比130%と、前年並、平年を上回りました。水揚の主体は、被鱗体長9.5～11.5cm前後の0歳魚(2020年生まれ)で、17.0cm前後の1歳魚(2019年生まれ)もみられました。

なお、宮崎県では前年の71%、愛媛県では前年の153%、高知県では前年の55%の水揚量となっています(2020年7～11月の水揚量合計値)。

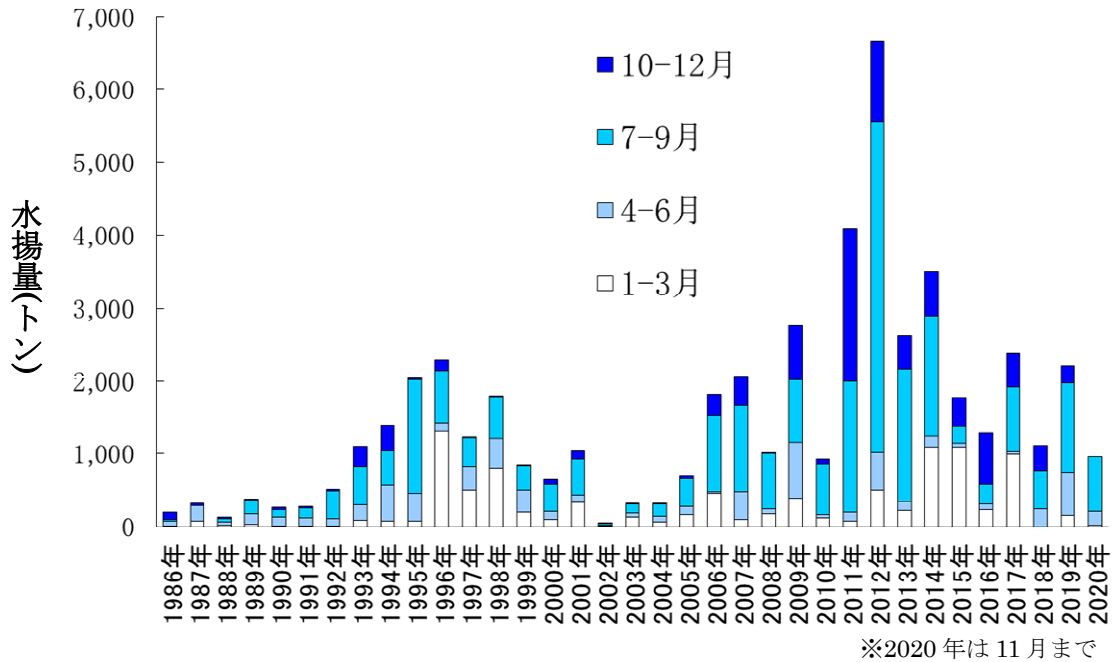


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～上回るでしょう。(2020年1～6月:207トン)



水揚対象年齢及び体長:

1～3月は被鱗体長15.0～20.0cm前後の1歳魚(2020年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長10.0cm前後の0歳魚(2021年生まれ)が水揚の主体となるでしょう。

【説明】

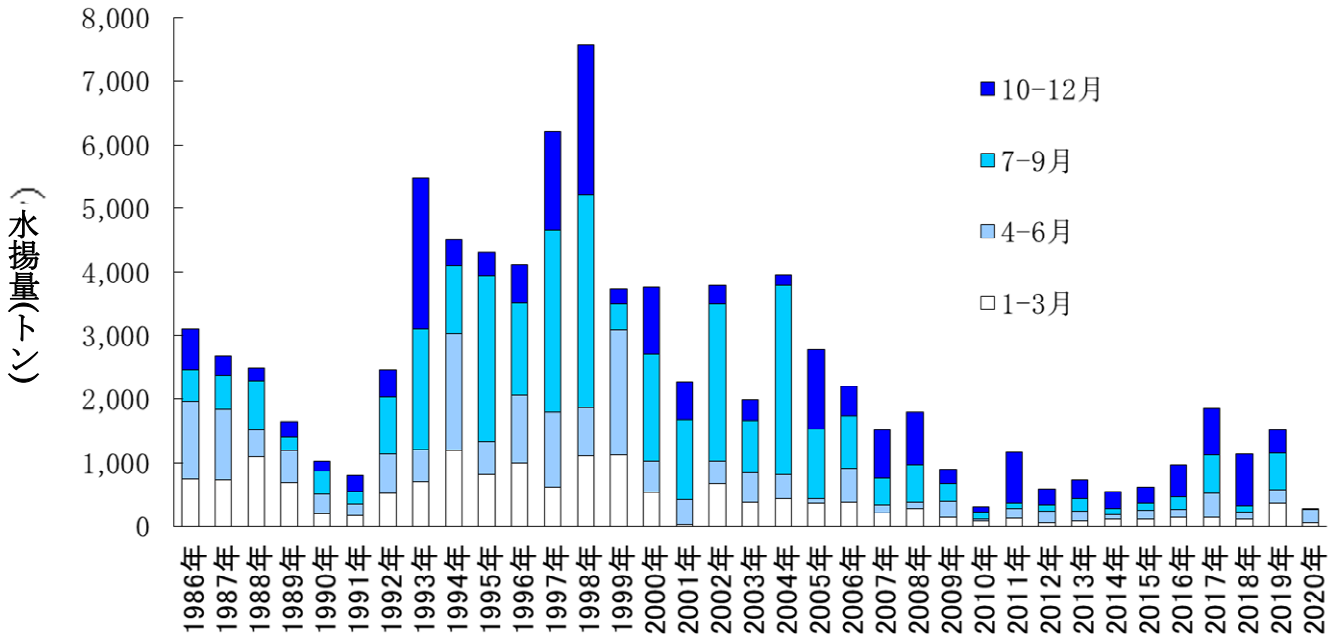
1～3月に水揚の主体となる明け1歳魚(2020年生まれ)は、0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体だった2020年7～11月の水揚量が1,186トンで、前年並であったことから、来遊は前年並であると考えられます。一方、前年1～6月の水揚が低調であったことから、予測としては前年並～上回るとしました。

■マアジ

□2020年7～11月の漁況経過

2020年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は155トンで、前年比18%、平年比11%と前年・平年を下回りました。水揚の主体は、尾叉長^(用語解説③)11.0～13.0 cm前後の0歳魚(2020年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の267%、愛媛県では前年の29%、高知県では前年の106%の水揚量となっています(2020年7～11月の水揚量合計値)。



※2020年は11月まで

図8 まき網によるマアジの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2020年1～6月:262トン)



水揚対象年齢及び体長:

近年の調査から尾叉長14.0～19.0 cm前後の1歳魚が水揚の主体となると考えられます。

【説明】

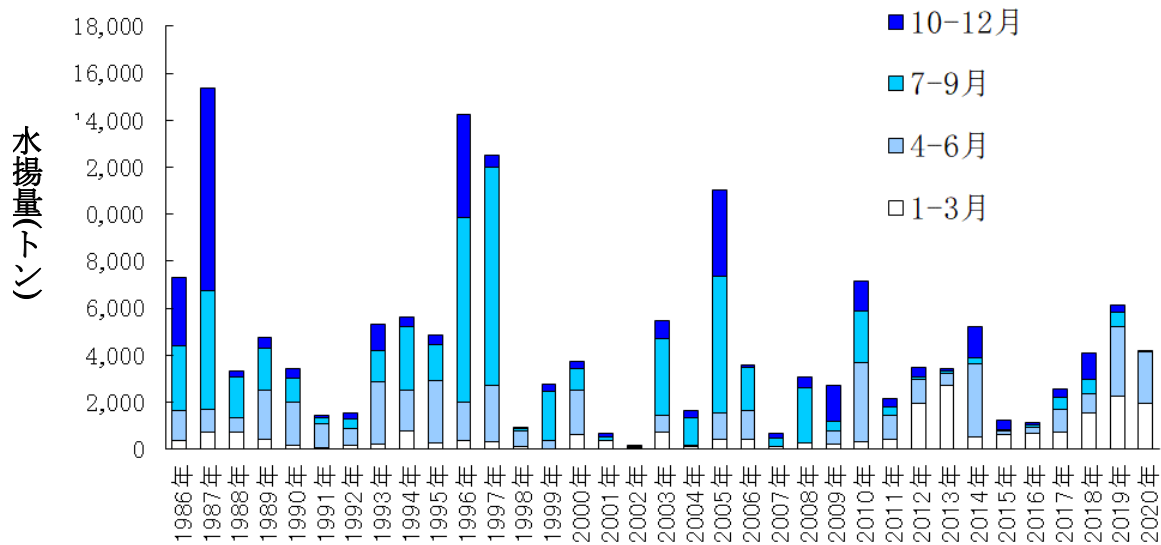
例年、1～6月は1歳魚が水揚の主体となります。0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体であった7～11月の水揚量は前年を大きく下回りました。また、資源状態も考慮し予測は前年を下回るとしました。

■サバ類

□2020年7～11月の漁況経過

2020年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は201トンで、前年比22%、平年比8%と前年、平年を下回りました。期間中はマサバの割合が大きく、水揚の主体は、尾叉長20.0cm前後の0歳魚(2020年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の183%、愛媛県では前年の205%、高知県では前年の1,376%の水揚量となっています(2020年7～11月の水揚量合計値)。



※2020年は11月まで

図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)の水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2020年1～6月:4,153トン)

水揚対象年齢及び体長:

これまではゴマサバが主体でしたが、近年の調査結果によれば、1～3月は尾叉長30.0～35.0cm前後のマサバ3歳魚以上が主体となると考えられます。4月以降はゴマサバも対象となるでしょう。

【説明】

予測期間中は、30.0cm以上のマサバ3歳魚(2018年生まれ)以上が水揚の主体となり、4月以降はゴマサバも対象となると考えられます。2020年7～11月は0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体であり、その水揚が201トンで前年を下回りましたが、マサバは資源状態が良好と考えられており来遊に期待が持てます。一方で、前年の水揚量は好調であったことも考慮し予測は前年並～下回るとしました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・令和2年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2020)

URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20201222/20201222press.pdf>

■用語解説

- ①被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域をさす。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156